

学 会 録 事

1. 自然史学会連合

2013年度自然史学会連合総会が2013年12月22日に東京大学総合研究博物館ミュージズホールで開催された。

<報告事項>

1. 現在の加盟団体は39学協会（昨年から変動なし）。2. 運営委員会を4回開催。3. 博物館部会を1回開催。4. 緊急声明「日本版NIH構想における資源配分と人材育成プロセスへの懸念」に連合代表名義で署名（6/11）。5. 千葉県印西市「千葉ニュータウン21住区開発用地（通称、そうふけっばら）」の生物多様性保全を求める意見書についての賛同書を（独）都市再生機構理事長、千葉県知事、印西市長、千葉県企業庁長に提出（6/13）。6. 「国立美術館と国立文化財機構の統合に関する声明」を自然史学会連合ホームページに掲載（11/19）。7. 昨年度総会で承認された一般向け自然史書籍の企画案が学研出版社で不承認となったが、誠文堂新光社「子供の科学」90周年特別企画の一環としての出版計画を進める提案がなされた。8. 講演会「みる！きく！さわる！博物館～五感で感じる生物多様性～」(7/28, 沖縄県立博物館・美術館)開催。9. 沖縄県立博物館・美術館主催「海山川のおくりもの目からウロコの生き物展！～生物多様性ホットスポットJAPAN～」(7/12-9/1)後援。10. 国立科学博物館ほか主催「GBIFワークショップ～外来種・移入種と生物多様性情報」(12/14)後援。11. 日本第四紀学会ほか主催「国際第四紀学連合第19回大会」(2015/7/27-8/2)共催。

<審議事項>

1. 2012年度会計決算および監査報告：説明の後、承認された。2. 2013年度会計経過報告：説明の後、承認された。3. 2014年度事業計画：運営委員会（5回）、博物館部会（2回）、一般向け講演会（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）、自然史書籍の出版準備：説明の後、承認された。4. 2014年度予算案：説明の後、承認された。5. 学術会議会員・連携会員候補者に関する情報提供：説明の後、承認された。6. 慶弔内規の改訂：説明の後、承認された。7. 自然史連合主催講演会における演者の推薦や学会紹介ブースの設置：説明の後、承認された。8. 自然史書籍出版の出版計画：説明の後、承認された。

<2014-15年度代表選挙>

北里洋代表の信任投票が行われ、信任32不信任0で2期目続投が決定。

2. 日本分類学会連合

日本分類学会連合第13回総会が2014年1月11日に国立

科学博物館上野本館講堂で開催された。

<報告事項>

1. 現在の加盟団体は25団体。2013年度活動報告：ABS (Access and Benefit Sharing 遺産資源の利用から生じた利益の公平な配分) 説明会を開催（1/11, 東京大学理学部2号館）、第28回役員会を開催（1/11, 東京大学総合研究博物館）、第12回総会を開催（1/12, 国立科学博物館上野本館講堂）、第12回公開シンポジウム（1）「自然史標本の公的保護をめざして」（1/12）と（2）「分類学があらためて「種」と向き合うとき」を開催（1/13）（ともに国立科学博物館上野本館講堂）、生物科学学会連合に加盟（2/16）、第29回役員会を開催（6/7, 東京大学総合研究博物館）、生物科学学会連合第7回定例会議に出席（6/8）、生物科学学会連合緊急声明「日本版NIH構想における資源配分と人材育成プロセスへの懸念」に賛同（6/11）、日本昆虫科学連合・日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会との共同主催シンポジウム「昆虫分類学の新たな挑戦」に協賛（7/20）、生物科学学会連合第8回定例会議に出席（10/12）、生物科学学会連合教科書問題検討委員会第1回会議に出席（12/26）。2. ニュースレター：第22号（1/31）発行、第23号（6/21）発行。3. ホームページ：国立情報学研究所のサーバからさくらインターネットのサーバへ移管、問題なく稼働中。4. データベース：日本産生物種数調査の公開ホームページを連合のサーバへ移転する作業完了、国内の重要コレクション実態調査を植物標本を対象として行い、日本植物分類学会（維管束植物）、日本蘚苔類学会（コケ植物）、日本藻類学会（藻類）、日本菌学会（菌類）、日本地衣学会（地衣類）に協力を依頼し、維管束植物・コケ植物・菌類・藻類について約270のコレクションについての結果がまとまった。5. メーリングリスト：会員数は1,007名（2013年12月12日現在）、1年間に28名増。

<審議事項>

1. 2014～2015年度役員選出：役員会案の説明の後、承認された。2. 2014年度広報出版委員会委員の選出：役員会案の説明の後、承認された。3. 2013年度決算（一般会計と特別会計）および会計監査報告：説明の後、承認された。4. 2014年度事業計画：以下の事業について説明があり、承認された：2014年第13回公開シンポジウムの開催（1/11, 国立科学博物館上野本館講堂）、生物科学学会連合第9回定例会議に出席予定（2/15）、第14回国際ダニ学会議に後援予定（7/14-18）、2015年第14回公開シンポジウムの開催（2015/1/10, 開催地・内容未定）、ニュースレター24号、25号の発行、ホームページ従来通り継続、データベース（国内の重要コレクション実態調査の継続、今年度は動物コレク

ション調査開始，植物コレクション調査結果を連合ウェブサイトで公開)。5. 2014 年度予算：予算案（一般会計）について説明があり，承認された。6. 鶴崎代表から J-STAGE における論文掲載について話題提起され，日本植物分類学会，日本進化学会，日本ダニ学会から現状報告された。日本原生生物学会から情報収集の必要性が提案された。今後，情報集約し，連合庶務からメーリングリストで報告予定。日本分類学会連合として要望書提出については今後検討予定。

<その他>

1. 日本原生動物学会の名称を日本原生生物学会に変更したことが報告された。2. マーク・J・グライガー氏（琵琶湖博物館）による国際動物命名規約に関する説明があった。

3. 水産・海洋科学研究連絡協議会

第1回協議会が2013年5月20日に東京海洋大学品川キャンパスで開催された。

<議題>

1. 議長の選出：渡部終五氏が推薦され，全員一致で承認された。2. 副議長の選出：渡部氏より日本海洋学会の代表（津田敦氏），日本魚病学会の代表（岡本信明氏），漁業経済学会の代表（末永芳美氏）が推薦され，全員一致で承認された。3. 幹事の選出：昨年度に引き続き竹内俊郎氏とすることが承認された。4. 各学会の活動の紹介があった。5. 学協会の法人化対策について：一般社団法人化する場合の情報提供があった。6. 日本学術会議第22期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定について情報提供があった。7. 東日本大震災災害復興支援シンポジウムについて：本シンポジウムは日本学術会議主催フォーラムとなること，講演者が全て決まり次第，詳細を検討する予定であること等の報告があった。

第2回協議会が2013年11月28日に東京海洋大学品川キャンパスで開催された。

<議題>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム「東日本大震災からの水産業および関連沿岸社会・自然環境の復興・再生に向けて」：準備状況について報告があった。2. 各学会の活動の紹介があった。3. 学協会の法人化対策について：日本学術会議公開シンポジウム「学協会の新公益法人法への対応の現状と展望」（10/22）について紹介があった。マリンバイオテクノロジー学会と水産海洋学会が法人化を目指しているとの情報提供があった。4. 日本学術会議第22期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定について：経過と今後について報告があった。5. 日本学術会議第23期会員，連携会員の選出方法について：水産学分会は，本協議会の代表が入れるような体制にしたいので，各学会から積極的な推薦をお願いしたいとの説明があった。

4. 日本学術会議主催学術フォーラム

日本学術会議主催学術フォーラム「東日本大震災からの水産業および関連沿岸社会・自然環境の復興・再生に向けて」が2013年11月29日に日本学術会議講堂（東京都港区六本木）で開催された。

<概要>

1. 主催：日本学術会議。2. 共催：食料科学委員会水産学分会，水産・海洋科学研究連絡協議会，日本水産学会。3. 後援：日本農学アカデミー，大日本水産会，全国漁業協同組合連合会，水産海洋学会，日本付着生物学会，日本魚病学会，国際漁業学会，日本ベントス学会，日本魚類学会，地域漁業学会，日仏海洋学会，日本海洋学会，日本水産増殖学会，日本藻類学会，マリンバイオテクノロジー学会，日本水産工学会，日本プランクトン学会，漁業経済学会。4. 次第：12の演題と総合討論があり，本学会としては，田中次郎会長が第二部の座長を務めた。



海洋植物観察ガイド&防水リーフレット

この和文誌藻類の編集でも使っている InDesign を使って，私の研究室の堀内 はるなさん（学部4年生）が素敵な千葉県館山市沖ノ島の海洋植物観察ガイド&防水リーフレットを作成しました。地元の小中学生や館山市にあるお茶の水女子大学湾岸生物教育研究センターでおこなわれる SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の生徒さん達用に作成したもので，販売はしていません。日本藻類学会船橋大会のコンgresバックに，こっそり忍び込ませようと思っています。（島田）



「海の観察ガイド - 千葉県館山市沖ノ島 海の植物編 -」

会 員 異 動

新入会 個人会員	機関名または氏名	所属機関または自宅住所
-------------	----------	-------------

所属変更	氏名	所属機関
個人会員		

学会・シンポジウム情報

2014年3月14日(金)～18日(火)

第61回日本生態学会広島大会(広島国際会議場, 広島) [http://www.esj.ne.jp/esj/]

2014年3月14日(金)～16日(日)

日本藻類学会第38回大会(東邦大学習志野キャンパス, 船橋)

2014年3月20日(木)～23日(日)

日本植物分類学会第13回大会(熊本大学黒髪南キャンパス 工学部2号館, 熊本)

2014年3月27日(木)～31日(月)

平成26年度日本水産学会春季大会(北海道大学水産学部, 函館) [http://www.jsfs.jp/]

2014年5月6日(火)～7日(水)

4th annual European Algae Biomass Conference (Seville, Spain) [http://www.wplgroup.com/aci/conferences/eu-eal4.asp]

2014年5月18日(日)～23日(金)

2014 Phycological Society of America Annual Meeting (Portland, USA) [http://www.psaalgae.org/website/opportunities/future_meetings.html]

2014年5月31日(土)～6月1日(日)

第16回マリンバイオテクノロジー学会大会(三重大学生物資源学部, 津) [http://www.eureka-blueocean.jp/ja/jsmb16.html]

2014年5月31日(土)

日本応用藻類学会第13回大会(東京海洋大学楽水会館, 東京) [http://jsap.web.fc2.com/]

2014年6月9日(月)～11日(水)

EABA (European Algae Biomass Association) & Conference (Firenze, Italy) [http://www.eaba-association.eu]

2014年6月25日(水)～27日(金)

2014 Annual Meeting of the British Phycological Society (the Ryan Institute, National University of Ireland Galway) [http://www.brphycsoc.org/meetings.lasso]

2014年8月27日(水)～29日(金)

2nd International Conference on Algal Biorefinery 2014(Lyngby, Denmark) [http://www.bioh2iitkgp.in/docs/Invitation%20ICAB%202014.pdf]

2014年8月21日(木)～24日(日)

日本進化学会第16回大阪大会(高槻現代劇場, 大阪) [http://sesj.kenkyuukai.jp/special/?id=1426]

2014年10月27日(月)～31日(金)

16th International Conference on Harmful Algae (ICHA) (Wellington, New Zealand) [http://www.icha2014nz.com/]

2014年9月12日(金)～14日(日)

日本植物学会第78回大会(明治大学 生田キャンパス, 川崎) [http://bsj.or.jp/bsj78/]

2014年9月19日(金)～22日(月)

平成26年度日本水産学会秋季大会(九州大学, 福岡) [http://www.miyagi.kopas.co.jp/JSFS/]

2015年6月7日～11日

6th Congress of European Microbiologists (Maastricht, The Netherlands) [http://knvm.org/events/11]

訃報

本会会員 横澤敏和氏は平成26年1月29日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。日本藻類学会